

昭和49年度 和歌山県名匠

【製竿師】

せい かん し
【製竿師】
やま だ いわ よし
山 田 岩 義

【現住所】橋本市
【生年】大正元年

職 歴

大工見習（大正14年～昭和6年）

大阪「竿五郎」製作所入門見習（昭和6年～昭和9年）

製竿業自営（昭和9年～現在）

業績の概要

グラス・ロッド竿がはばをきかせているなかで、和歌山の橋本市周辺でしか作れないへら鮒竿の最高級品を製作、伝統ある県特産品として釣仲間のみならず広く鑑賞用としても賞賛されている。

昭和6年大阪の「竿五郎」製作所に入門、約3年の修業を経て橋本市で製竿業を営んでいる。

銘は「源竿師」、マニアからの注文品が多いので、客の好みと合った竿を作る材料を選ぶ目が必要である。

魚をあしらう竿、それは名刀のように折れず曲がらずそして美しい伝統ある紀州竿で、広く釣仲間や業界に知られている。

昭和17年と昭和46年の2回、天皇陛下に献上、喜ばれるとともに、万国博覧会には和歌山県特産品として出品した。

国内で唯一カ所だけとなった紀州竹竿の伝統を守るため、後進の育成指導にも尽力している。